

ほろ中の人

339 中耳炎



大崎短歌会

兼題『合歓の花・精霊
流し・自由』

夕闇に楚々と咲きたる合歓の花
遠き星ぞら亡父へ思い馳せ
真夏日の南の風に微と揺れ
早稲穂色付き稔る秋まつ
庭先の合歓の花簇微笑みて
帰宅見守り眠りに就くや
合歓の花一枝挿して夕餉せる
濃き味夫のゴーヤチャンプル
轟の滝つばの上幾十の
蝶々いるごと合歓の花咲く
ネムの花女王のごとき気品さを
ピンクの冠愛しさ感ず
稲刈りの適季を狙い台風の
次々発生南の海上に

井元かず子
実吉安仁
杵山重子
本後淑子
山下海征
川崎健一
穂園芳江

原爆忌祈りに満ちしこの夏日

何の啓示か降りし大雨

明日も又きれいな夕陽愛でるよ

事なき今日に感謝の夕べ

坂元つる子

薩摩郷句

兼題『焼酎
しよちゆ』

焼酎瓶ぬ 抱かせつ葬い 一斗甕
(唱) 天国で飲めち 嬉し手土産
二見愚楽満
焼酎好つが も飲まん言たて 盃く握つ
(唱) 握つみたとよ 言訳けん親父
上窪小絵
口下手に 焼酎が加勢しっ プロポーズ
(唱) ちゃんと言たどち 良か返事ずば待つ
佐藤ぼつけちゃん

一生をば 棒い振つ後悔ん 焼酎ん事故

(唱) 飲んだら乗るな 解らんか阿呆

諸木小春

飲で喰ろつ いっこ帰らん 手ぶら客

(唱) 女房は表で 逆簾く立てつ

北村虎王

森伊蔵瓶の おやつとさあを 美味め言つ

(唱) 美味めどが言て にたにた笑つ

上村牛歩

美味焼酎 味噌きゆう添えた 女房け感謝

(唱) 気の利つ女房い また惚れ治えつ

下橋清兵衛

焼酎を止め 言た医者殿と 縁ぬ切つ

(唱) 敷医者じゃった も一生行かん

井上三ちゃん

家族中しっ 焼酎飲み弾ん 十五夜様

(唱) お月様迄い 笑るつ光つちよつ

長重リリー

他人宅じゃ おてちき焼酎を 飲んたくつ

(唱) 女房とじゃ弾まん 折角の焼酎

満石うらら

新築祝へ 焼酎三本で 上がり込つ

(唱) 飲ん放題飲めち 家主も喜つ

藤元鬼瓦

幻の 焼酎を飲ませち また訪つ

(唱) 俺もえ飲まんて 厚顔奴

遠矢耐多